



考古資料精選 ⑬

渥美焼(壺・鉢)

平成8年、御領遺跡の発掘調査において出土した陶器の壺と鉢で、愛知県の渥美半島で作られていたことから渥美焼と呼んでいました。壺は口径9.5寸、器高22・7寸、肩部にヘラ記号が刻まれている完形品(完全な形で出土したもの)で、鉢は口径18・8寸、器高6.9寸でこちらもほぼ完形品に近いものです。どちらも鎌倉時代後期(13世紀後半ごろ)の製品と考えられています。

め、常滑焼はよく出土しますが、渥美焼の出土は大変珍しい事とされてきました。その意味で、今回の資料は当時の流通の実態を把握する貴重な一例であり、それは御領の中世集落の性格を解明するうえでも大きな役割を果たすものと言えます。

三河湾を挟んで西に位置する知多半島の常滑焼が西日本にまともって供給されていたため、その東で生産されていた渥美焼は主に東海から東北地方にかけての太平洋側に供給されていました。そのた



市制施行50周年記念

合併から50年①
大東市の誕生

これからこのコーナーでは、大東市のあゆみを紹介していきます。

大東市は昭和31年4月1日に住道町、四条町、南郷村の2町1村が合併し、府下22番目の市として誕生しましたが、合併時の人口についてこんな話があります。当時、市となる条件には5万人以上の人口が必要で、特例として3万人でも可能ということでした

が、2町1村の人口を合わせても足りませんでした。しかし、昭和30年の国勢調査において、かろうじて3万人を越えたため(3万118人)、ようやく市になることが出来ました。今年度は大東市が誕生してちょうど50年目になります。その間、2度の水害に見舞われましたが、発展を続け、今では人口約13万人、府下の中堅都市としての地位を築きつつあります。